（独）農畜産業振興機構
畜 産 業 振 興 事 業

# 飼料増産ホットニュース

第 52 号　2009. 5. 15
発行者　全国飼料増産行動会議事務局
事務局　（社）日本草地畜産種子協会
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-19-8 大野ビル
TEL 03-3562-7032　FAX 03-3562-1651
http://souchi.lin.go.jp/

国産稲わら
稲ＷＣＳ
放牧

## 自給飼料確保による「氷見牛」生産基盤の拡大
## ― 「農業生産法人㈱ＪＡアグリひみ」の事例 ―

重点地区

富山県農林水産部農業技術課広域普及指導センター　佐丸郁雄

### 1．氷見市の概要

氷見市は富山県の西北、能登半島の東側付け根部分に位置しています。面積は 230.47 ㎢、人口約５万５千人です。主な産業は漁業と農業で、日本海有数の氷見漁港には、四季を通じて 156 種類もの魚が水揚げされます。特に冬の「寒ブリ」、「氷見イワシ」等が有名です。また、農産物についても「氷見米」、「氷見はとむぎ」、「氷見牛」等の氷見ブランドが定着してきています。

### 2．氷見牛の現況と問題点

氷見市では15戸の農家で1,026頭の肉用牛が飼養されています。また、氷見牛のブランド化を図るため、肉牛農家と関係者で「氷見牛ブランド促進協議会」を組織し、氷見牛の枝肉品質を高める努力を重ねながら、ブランド化と氷見牛のＰＲに努めてきました。

これにより、氷見牛の名称は徐々に浸透し、県内では氷見牛の牛肉は通常より１～２割高値で取引されています。また最近では、『ランキンの楽園』でギャル曽根さんにより氷見牛カレーが全国１位に選ばれるなど、全国的にも急激に知名度が向上してきています。

しかしながら、農家の高齢化等により氷見牛の生産農家数及び生産頭数は伸び悩んでおり、需要に応じきれない状況となっています。

### 3．『ＪＡアグリひみ』の概要と主な取組み

『農業生産法人㈱ＪＡアグリひみ』は、平成 18 年 4 月にＪＡ氷見市の 99%出資により設立され、氷見市農業を振興するためのモデル農場としての役割を担っています。

経営部門は大きく耕種部門と畜産部門に分かれていま

新設繁殖牛舎

肥育牛舎内

コンテンツ

● 自給飼料確保による「氷見牛」生産基盤の拡大・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１頁
● 桑園放牧に取り組む和牛放牧研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３頁
● 事務局より・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４頁

す。耕種部門は氷見市の重点作物であるハトムギ、水稲等の栽培や作業受託を行っており、畜産部門はモデル的和牛繁殖肥育一貫経営による氷見牛の生産基盤の確保を目指しています。平成19～20年度にかけて、国等の助成を受け、牛舎（規模：和牛繁殖雌牛 30 頭、肥育牛 100 頭）等の施設及び機械を整備しました。現時点（平成21.4.1）の飼養頭数は繁殖牛26頭、肥育牛68頭です。

経営の特徴は、生産コスト低減のための、飼料用稲（ＷＣＳ）栽培と稲わら回収による粗飼料の確保、さらには繁殖牛の耕作放棄地等での放牧です。また、「氷見うどん」の麺くずや「はとむぎ茶」残渣等の地域未利用資源の利用にも取り組んでいます。

## 4．「生稲わらサイレージ」の利用

本県における稲わらの自給率は、回収時期の天候不順等から約18%と低く、収穫量も年毎のバラツキが多く不安定となっています。

このため、県畜産研究所では収穫作業が天候の影響を受けにくい刈取り直後の生稲わらのサイレージ調製技術の確立を図るとともに、生稲わらサイレージに配合飼料や生米ぬかを混合した発酵ＴＭＲ技術の開発に取り組んでいます。発酵ＴＭＲは、開封後の品質が安定しており、また、従来の乾燥稲わら・濃厚飼料の分離給与よりも牛の嗜好性が良く採食量が多くなるため、これを給与することにより肥育成績の向上が図られます。

「ＪＡアグリひみ」では、この技術を県内の他農家に先駆けて利用するため、昨年５ha 分の生稲わらを回収しました。なお、サイレージ調製に当たっては、サイレージ品質を向上させるため、畜産草地研究所で開発された乳酸菌製剤「畜草１号」を添加しています。今年から、生稲わらサイレージをベールカッターで細かく切断したものと、濃厚飼料、稲ＷＣＳ、食品残渣（地域未利用資源）等をコンプリートフィーダーで混合し、更に発酵ＴＭＲに調製したものを肥育牛に給与する予定にしています。

稲ＷＣＳの収穫

生稲わらサイレージ

## 5．「カウベルト事業」による放牧の推進

県では、安心で美しい郷づくりを推進するため、平成19年度からカウベルト（野生動物と人間とのすみ分けのために牛の放牧帯を設ける）の設置を事業化し、モデル地区の拡大や定着を図っています。

「ＪＡアグリひみ」は、平成 20 年度から県西部のサブステーションとして、カウベルト用の放牧牛（繁殖和牛）を管理し、春から秋にかけて、地域の放牧実施主体に放牧牛を貸し付けるとともに、円滑に放牧が実施できるよう支援を行っています。平成20年度は、県内５ヵ所のカウベルト（氷見市２ヵ所、南砺市１ヵ所、滑川市２ヵ所）への支援を実施しました。

親子放牧

この中で、南砺市の例では、平成 19 年度は市民農園がイノシシに荒らされサツマイモの収穫が皆無となるなど大変困っていたものが、翌年度に農園を囲むように放牧を実施したところ、被害が全く無くなり農作物が収穫できるようになりました。また、放牧した牛は命名式で子供たちに名前を付けてもらい、放牧地で分娩した子牛ともども、農園を訪れる人達に大変可愛がられました。

このように、放牧は、耕作放棄地の解消や中山間地域の振興に寄与するだけでなく、畜産側にとっても飼料費や労働力の軽減が図れるとともに、地域住民の畜産への理解が進むメリットがあります。

市民農園の人達に愛される牛達

## 6．今後の取組み

今後は、これまで実施してきた放牧やＷＣＳ栽培、稲わら回収等を更に進め、粗飼料自給率を限りなく 100%に近づけるとともに、「氷見うどん」や「氷見ハトムギ」等のブランドイメージの高い地域未利用資源の活用により、飼料コストの削減と高付加価値化を図っていきたいと考えています。

# 放 牧

## 桑園放牧に取り組む和牛放牧研究会
## —福島県本宮市白沢地区の取り組み—

福島県県北農林事務所安達農業普及所地域農業推進課　坂本利彦

### 1．和牛放牧研究会設立の経緯

福島県を南北に流れる阿武隈川中流部・阿武隈山地西麓に位置する本宮市白沢地区は、中山間地で以前は養蚕が盛んでしたが、昭和５０年代後半からの養蚕業の衰退とともに遊休化した桑園が増加し、管理が放棄された桑園は、害虫の発生源となるなど地域環境に影響を与えることから、遊休農地の活用が問題となっていました。

荒廃した桑園

一方、当地区は、和牛の繁殖が盛んな県内有数の産地ですが、担い手不足や高齢化により年々飼養頭数が減少していました。

こうしたなか、遊休化した桑園を利用して放牧を実施している繁殖農家から、放牧技術の向上や桑園放牧希望者の受け入れ体制強化のため、放牧関係組織を立ち上げ、放牧を地域に広げていこうとの声があがりました。

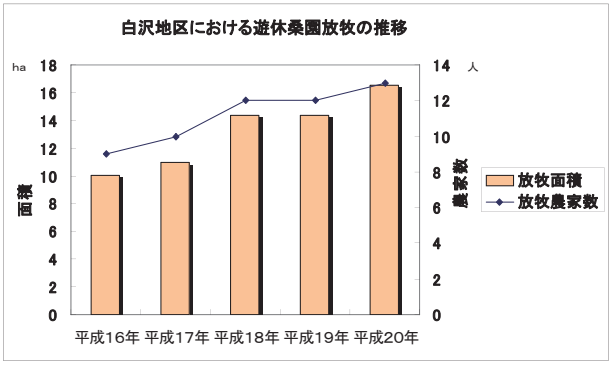
そこで、繁殖農家５名で「放牧組織設立準備会」を立ち上げ、組織の目的や活動について検討を行い、平成１７年３月２４日県内で初めて「和牛放牧研究会」が設立されました。

牛のいる風景

### 2．和牛放牧研究会の概要と主な活動内容

現在、和牛放牧研究会は、繁殖農家２３戸（非放牧農家含む）で組織されており、「地域の遊休農地を繁殖牛の放牧地として有効に活用し、経営の安定を目指す。会員相互の連携を密にする。」ことを目的に活動を行っています。

実際に放牧を行っている繁殖農家は１３戸約１７ｈａで、うち１戸は平成２０年度に約１ｈａの放牧地を造成し、これまでの舎飼いから新たに放牧を開始するなど、放牧への取り組みが広がっています。




#### （１）放牧地造成時などでの会員間の相互協力

放牧地造成時などに会員間で労力を提供し合うシステムを整備し、放牧に取り組みやすい環境を作るとともに、労働負担の軽減を図っています。

桑 の 伐 採

#### （２）研修会の実施

放牧技術の向上と放牧利用の推進を図るため、簡易電気牧柵敷設実演会や放牧地の肥培管理等の研修会を開催しています。

簡易電気牧柵敷設実演会

肥培管理研修会

（３）放牧地造成のための新技術導入

遊休桑園を放牧地化する場合、桑を抜根するのが主流ですが、当地区では、県農業総合センター畜産研究所で確立した技術で、伐採・積載・搬出は行わず、枯木化するために樹幹の一部を環状に皮剥処理しながら牧草を導入する方法を採っています。抜根を行わないことで抜根にかかる費用や労働力も削減することができ、さらに残された桑の根により傾斜地の土砂崩れを防ぐことができます。

牧柵は安価な鉄管や桑樹を利用した低コストの簡易電気牧柵を用い、牧草の播種はマクロシードペレットにより造成を進めています。

パイプハウス鉄管（左）、桑樹（右）を利用した牧柵

桑の皮剥　　マクロシードペレット散布

（４）パネル展示

市の産業祭で和牛放牧研究会の活動をパネルで紹介し、地域住民に広く認知して頂くことが出来ました。

（５）生産資材の共同購入推進

放牧を実施するために必要な肥料や資材を共同で購入しコストの低減を図る取り組みを行っています。

（６）土壌分析の実施

土壌分析にもとづいた施肥設計を行い、放牧地の適正管理に努めています。

## ３．他地区への波及

阿武隈山地の隣接する二本松市東和地区でも、放牧に取り組む繁殖農家が徐々に増えつつあり、組織化が検討されています。

遊休桑園の解消と遊休農地の有効活用には、放牧は有効な手段であり、今後、牛を飼養していない地域にも放牧を推進していきたいと考えています。

**事務局より**

**《第１３回全国草地畜産コンクール表彰式について》**

❒「第１３回全国草地畜産コンクール表彰式を６月２９日（月）に発明会館ホール（東京都港区虎ノ門）において開催します。多数の皆様のご参加をお待ちしています。詳細については、当協会ホームページをご覧下さい。

**《放牧畜産基準認証制度創設について》**

❒当協会では、放牧のより一層の普及促進と消費者の理解醸成を図るため、学識経験者等からなる検討委員会を設置し、草地畜産に関する調査や検討を行ってきました。そこでの結果をもとに、このたび「放牧畜産基準」を制定し、その認証制度を創設しました。

認証制度の詳細については、当協会のホームページをご覧下さい。

**《放牧アドバイザーによる放牧の現地指導について》**

❒放牧アドバイザーによる放牧の現地指導、放牧に関する講演の講師を派遣しています。詳細については、当協会のホームページをご覧下さい。

**放牧アドバイザーの旅費、教材費等は当協会が負担します。**